

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	柿の花 : 短歌
Author(s)	長尾, 壽雄
Citation	龍南, 237: 33-33
Issue date	1937-06-05
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7382
Right	

加藤邸を急ぎ出で来て川岸の夕暗ゆふぐらがりに尿放にようちけり

火の山に馳はせし輝雄が歎かへば Die neue Erde を見つつ寂しき
實驗に疲れきぬれば背のびして齊藤大人うしの歌口ずさむ

柿の花

長尾壽雄

柿の花のほひゆたかなりこの夕べふるき洋燈らんぶをあかあかと灯す

舗道にも灯ともりぬ秋の雨人繁き巷に光りつゝ降る

ま晝間の墓場の隅に我ひとり聲たかだかとヴィロンを読む

向日葵は風にゆれつゝ晝深し此道しろじろと墓場につゞく

落陽おしびさす龍田の山は静かなりか細きかぜに木の葉散りつゝ